

芦北町

演能会

喜多流能「羽衣」

狩野了一

和泉流狂言「昆布売」

みのる会

令和7年**8月30日**(土)

14:00 開会 (13:00 開場)

**芦北町民総合センター
(しろやまスカイドーム)**

主 催 芦北町

入場料 前売券……2,000円

当日券……2,500円(中学生以下無料)

《開会アトラクション》 熊本県神社庁雅楽部会演奏

【チケット販売所】

芦北町役場(本庁舎1階商工観光課・大野出張所・吉尾出張所)

芦北町教育委員会スポーツ・文化振興課(田浦支所内)

芦北町コミュニティセンター・しろやまスカイドーム・

芦北町営温泉プール・津奈木町教育委員会

【お問い合わせ先】

芦北町教育委員会 スポーツ・文化振興課文化振興係

(TEL 0966-87-1171 内線145)

14:25

《番組》

解説 狩野 祐一

―火入れ式―

【狂言】

昆布売

シテ(昆布売)

山内

理至

アド(大名)

田 寫

晴雄

【能】

15:10頃

羽衣

シテ(天女) 狩野 了一

霞留

ワキ(漁夫・白龍)

岡 充

(大鼓) 柿原 光博

(小鼓) 古田寛二郎

(箏) 浦 政徳

(太鼓) 田中 達

(後見)

中村 邦生
大島 衣恵

(地謡)

小川 芳久 狩野 祐一
衛藤 光明 粟谷 充雄
渡辺 康喜 金子敬一郎
山下 保昌 塩津 圭介

十六時三十分 終了予定

《狂言 昆布売 あらすじ》

武士の何某は、外出するのに今日に限って共がないので、適当な者がいたら共をさせようと往來で待っていました。

通りかかった若狭の小浜の召し(献上)の昆布を売り歩く男に声をかけ、いやがるのを無理に太刀持ちにさせようとした。怒った昆布売りは、何某を油断させてから太刀を抜いておどし、腰の小刀を取り上げ、「昆布召せ昆布召せ」と昆布を売らせませす。昆布の売り声を平家節、小歌節、踊り節いろいろな変えてなぶり、太刀と小刀を持ち逃げしました。

太刀という武器によって、昆布の行商人と武士の立場が逆転するおかしさ、下剋上気分とともに、踊り節に浮かれる大らかさもある話です。

《能 羽衣 あらすじ》

春の朝、三保の松原に住む漁師・白龍は、仲間と釣りに出た折に、松の枝に掛かった美しい衣を見つけます。家宝にするため持ち帰ろうとした白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍(はくりよう)は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでした。が、「それがないと、天に帰れない。」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらう代わりに、衣を返すことにします。

羽衣を着た天女は、月宮の様子を表す舞などを見せ、さらには三保の松原を賛美しながら舞い続け、やがて彼方の富士山へ舞い上がり、霞にまぎれて消えていきました。

昔話でおなじみの、羽衣伝説をもとにした能です。昔話では、天女は羽衣を隠されてしまい、泣く泣く人間の妻になるのですが、能では、人のいい漁師・白龍は、すぐに返します。

羽衣を返したら、舞を舞わずに帰ってしまうだろう、と言う白龍に、天女は、「いや疑いは人間にあり、天に偽りなきものを」と返します。正直者の白龍は、そんな天女の言葉に感動し、衣を返すのです。

天女の舞はこの能の眼目で、後に東遊(あずまあそび)の駿河舞として受け継がれたという、いわれがあります。世阿弥は、伝書の中で、天女の舞を特別なものと考えていたようです。

穏やかな春の海、白砂青松、美しい天女の舞、そして遠く望む富士山。演者も観客も、幸せな気分にしてくれる能といえるでしょう。